

## ここにこの人あり 地域の世話役さん登場

包括支援センターの専門職が地域の方にインタビューしています。

### 「町内のつながりや見守りを大切に…」

大宮学区女性会副会長・民生委員 **和田 勝子**さん

聞き手 山田 沙希

—— 今回は大宮学区で女性会副会長、民生委員として活躍されている和田勝子さんにお話を伺いました。

結婚後、46年間この大宮学区に暮らしています。女性会副会長をお引き受けして5年目、民生委員は9年目になりました。女性会には36年前から入っていましたが、民生委員を引き受けたのは子育てが一段落した時期でした。

私の父親が民生委員をしていましたので、小さい頃から近くでその仕事を見ていました。実家は台風時の避難場所になったり、被災した方の荷物置き場になったり、とにかく人の出入りの絶えない家でしたね。

そして私自身が、義母の介護で包括支援センターにお世話になったんです。デイサービスの利用を始めた頃は「私が家にいるのがそんなに邪魔なのか」と言っていた義母が、いそいそとデイサービスに行く準備をして、楽しみに送迎車を待つ間に倒れて亡くなりました。ショートステイの制度にもどれだけ助けられたか…。

前任の桃井さんの勧めもあり、義母の介護で皆さんにお世話になった分今度は私がお返する番かな、とごく自然にお引き受けしていました。

—— 最近あった出来事からこの仕事の重要性を改めて認識されたとのこと。

この一年、具合が悪くなって玄関先で倒れてる方がいると近所の方が見つけてくれて、救急車を呼んだり、「主人がいなくなった」と駆け込んでくる方がいらっしやったり…という事が続きました。行方不明の方は無事見つかったのですが、その時警察へ届けて、民生委員さん、消防団に連絡を回して、皆で捜索に出て探し出してくれたんです。本当に心丈夫でした。高齢者の多い地域で、こういうネットワークがあることの大切さを痛感しました。

病気で少し手の不自由な方と手紙の交換もしています。些細な内容のやりとりですが、これも近所だからこそできること。こういうつながりや見守りの大切さを感じています。

—— ボランティアやまなみの活動についてもご紹介いただきました。

ボランティアやまなみでは、ふれあい会食会「ことぶき会」を年4回(6月、9月、12月、3月)行っています。対象者は75歳以上の独居高齢(開始当初は65歳以上)の方です。最近は楽しみに参加してくれる人も増え、嬉しい悲鳴をあげていますが、大宮学区では伝統的に手作りの食事にこだわってがんばっています。12月は一番人気のおせち料

理です。

紙面の都合で残念ながらご紹介できませんが、その他に女性会のサークル「リズム&ジャズ体操」の活動も続けられています。

最近の悩みは、女性会や民生委員としての活動が忙しく、ご自分の孫の世話までなかなか手が回らないことだそうです。「家族の理解があるからこそ、続けられています。私なんてまだまだですが…」。



12月7日 ことぶき会の様子



大人気のおせち料理とお雑煮

終始穏やかで控えめな和田さんでしたが、私たち事業所が目指している地域包括ネットワークの一つの見本がここにあるのかな、と思うお話を聞くことができました。

### 大宮学区福祉避難所訓練

2013年11月22日朝8時に大宮学区で地震が発生!という想定で第3回避難所運営訓練が開催されました。各地域の集合場所に集まり、大宮小学校へ避難。今回は始めて集合場所から、車いすで避難をした方もいました。体育館ではいくつかの委員会を作り、避難生活は難しいと思われる要配慮者(妊婦、腰痛、怪我、視力障害の方など)には、要配慮者班の方が、支援をされました。

「要配慮者に配慮した避難所は、全ての人にやさしい避難所となる」という佛教大学後藤先生の指導の下、視力障害のかたも生活しやすい環境作りや実際に福祉避難所に搬送する訓練もされました。



リフトカーの操作方法について  
車いすの方は実際にリフトカーに乗って福祉避難所へ移動してもらいました。

視覚障がい者の避難者のために  
ビニール紐の上にガムテープを貼ることで簡易点字ブロックを作っています。

